

宮ノ陣ビオトープ新聞

発行
 くるめハイラスト株式会社
 久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番地
 〒839-0805 TEL0942-27-7515
 協力 株式会社エコプラン研究所

宮ノ陣学びのビオトープから生き物や季節の情報をお伝えし、豊かな久留米市の将来へのライフスタイルを提案する新聞。

第 11 号

(2024年3月)

宮ノ陣学びのビオトープ

2016年9月創刊 不定期発行

規模に関わらず、生物のための空間が増えたり、広がったりすることで私たちの生活への良くない影響も抑えられるのです。三月十三日、池の水を抜き、オオカナダモを除去するとともに生物調査を行いました。調査では、魚四種、底生動物九種、外来生物三種の計十六種の生物が確認できました。このうちカワバタモロコは、筑後川水系の周囲の限られた地域の農業用水路に生息し、絶滅危惧Ⅰ類(福岡県)に分類されるたいへん貴重な魚類で、これを守るために、二〇二〇年七月に成魚が放流されました。生物調査の際、放流以降に生まれたと思われる若い個体も確認できましたので、ここで繁殖していると思われる。他にもコオニヤンマのヤゴ、フタバカゲロウが初めて確認されました。外来種のプロリダマミズヨコエビも確認されましたが、マコモやコオホネ(プランター)などの植物を移設した際に一緒に入ってきたと思われる。毎年、数量の増減はありますが、元気に暮らしていることがわかりました。

表 池干しで確認した主な生物

分類	種名	数量					備考
		第六回 (2024.3)	第五回 (2023.2)	第四回 (2022.2)	第三回 (2021.1)	第二回 (2019.12)	
魚	カワバタモロコ	14	2023年夏に移入。若い個体も確認でき、繁殖していると思われる。				絶滅危惧ⅠA類(福岡県)、絶滅危惧ⅠB類(環境省)、特定第二種国内希少野生動物
	ツチフキ	67	58	34	94	約30	準絶滅危惧(福岡県)、絶滅危惧ⅠB類(環境省)
	モツゴ	109	約300	約100	183	約100	
	ミナミメダカ	55	687	約100	210	500以上	準絶滅危惧(福岡県)、絶滅危惧Ⅱ類(環境省)
	ヒメダカ	-	-	-	2	-	品種改良による観賞魚
底生動物	ミナミヌマエビ	430	数えきれないくらい多数	数えきれないくらい多数	数えきれないくらい多数	数えきれないくらい多数	
	ヤゴ(クロスジギンヤンマ)	-	-	3	-	約10	
	ヤゴ(ギンヤンマ)	2	-	1	7	-	
	ヤゴ(オオヤマトンボ)	-	5	-	-	-	
	ヤゴ(シオカラトンボ)	28	59	15	10	-	
	ヤゴ(コオニヤンマ)	1	-	-	-	-	今回初確認
	ヤゴ(イトトンボ科)	-	1	1	-	-	
	コガタノゲンゴロウ	15	-	100以上	110	約50	絶滅危惧Ⅱ類(福岡県)、絶滅危惧Ⅱ類(環境省)
	ウスイロシマゲンゴロウ	8	1	2	10	5	準絶滅危惧(福岡県)
	ヒメゲンゴロウ	-	-	1	-	-	
	ヒメミズカマキリ	-	-	-	-	2	
	ミズカマキリ	-	1	-	1	-	準絶滅危惧(福岡県)
	ヒメガムシ	21	-	4	10	約10	
	キヒロヒラタガムシ	-	-	2	-	-	
	フタバカゲロウ	1	-	-	-	-	今回初確認
カワニナ	12	112	50以上	107	約30		
シジミ属	-	1	1	-	-		
カエル	ヌマガエル	-	-	1	1	-	
備考	外来生物は	オオカナダモ(水草)、ハブタエモノアラガイ(貝)、フロリダマミズヨコエビ※今回初確認					

池干しの季節がやっつけてきたきた節が!



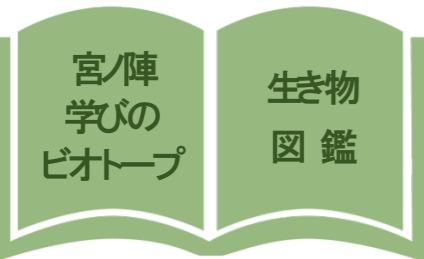
池の水を抜いて生物を救出する様子

宮ノ陣学びのビオトープでは、池内に生息できる生き物がくらす環境を整えるために、様々なテーマで学習や実践活動を行う中で、ビオトープの池の水を抜いて、生態系の保全や水質を改善するための「池干し」を定期的に行っています。すっかり恒例となった第六回目になる池干しを二〇二四年三月に行いました。また、国は生物多様性の保全が図られている区域を認定する制度を始めました。本号では、池干しと結果と生物多様性に関する新しい制度について報告します。

宮ノ陣学びのビオトープは、水辺の生き物の生息場所を守り、私たちが自然について学ぶ空間としてだけでなく、このような考えをもつと広げるためのモデル施設でもあります。キーワードは、「生物多様性」です。生物多様性とは、動植物の種類が多いだけではなく、地球の長い歴史の中で育まれてきた生きものが互いにつながっていることです。生物多様性のバランスが崩れたり、気候変動による自然災害が発生したりするなど、現代社会に様々な社会問題がある中、国は、二〇三〇年までに生物多様性の損失を止め、反転させる手段の一つとして、多様な主体により生物多様性の保全が図られている区域を「自然共生サイト」として認定する取組を令和5年度から開始しました。生物多様性保を推進することで、生物のためだけではなく、気候変動への影響、自然災害の抑制などが期待できるのです。

みやのじんビオトープこども新聞

みやのじんビオトープは、水、土、緑などいろいろな環境に生きものがくらすようになるためにつくられ、人が生きものについて学ぶばしょです。この「みやのじんビオトープこども新聞」は生きものやきせつのこと、イベントや学習会のことなどをお伝えします。



みやのじんビオトープの池ぼし カワバタモロコってどんな魚？

大きさをかたちの特徴 カワバタモロコのおとなの体の長さは約3～5センチです。おとなはオスよりもメスが大きい。口はななめ上に向いています。体の色は、ふだんは銀白色ですが、こどもを増やす時期(5～7月)は、オスは黄金色になります。



カワバタモロコ

すんでいる場所 日本にしかすんでいません。日本の中でも、静岡県から西の太平洋側の地域にのみすんでいます。福岡県では、矢部川・筑後川につながるかぎられた農業用の水路にすんでいます。

少なくなるカワバタモロコ カワバタモロコがくらす池、水路、川などの場所が、工事などにより、じょうたいが変わったりすることで、すみかが少なくなり、また、肉食の外来種(オオクチバス、ブラックバスやアメリカザリガニなど)が増えることによって、数が少なくなったと考えられています。

法律でのカワバタモロコ カワバタモロコをテーマにした環境教育、増やすための取組などのためにつかまえることは大丈夫ですが、売るためにつかまえることは禁止されています。宮ノ陣学びのビオトープでは、カワバタモロコを守って増やすために放流されました。

カワバタモロコを守るために 宮ノ陣学びのビオトープでは、定期的に池の水を干し上げて、カワバタモロコがくらす環境を大幅に改善(リセット)することが一番の効果です。その時に、外来種も取りのぞきます。つぎの池干しの時は、みなさんにも手伝ってほしいと思います。

“生物多様性”ってなに？ 私たちにとってじゅうようなの？

地球の生きものは40億年という長い歴史の中で、さまざまな地域の環境やその変化におうじて進化し、動物、植物、そして菌類などの微生物まで3,000万種ともいわれる多くのしゅるいの生きものが生まれました。これらの生命はひとつひとつにかたちや大きさ、性格などに違いがあり、たすけあいながら生きています。このようにいろいろなしゅるいの生きものがたすけあいながらつながっていることを“生物多様性”といいます。



図出展:こども環境白書 2016

現在、生物多様性がどんどんうしなわれています。その原因のほとんどが、下の図のように、わたしたち人間のくらしによるものです。そして、生物多様性に関する問題は、日本だけでなく、世界きょうつうの環境問題となっています。

<p>人が自然を管理しなくなった</p> <p>森や林、かせんじきなど、まちの近くにある自然を管理しなくなった</p>	<p>開発がすすんだ</p> <p>道路やたてものをつくったため、生きものすみかが少なくなった</p>	<p>外来種がふえた</p> <p>外来種がもともとすんでいた生きものを食べたり、すみかをうばったりした</p>	<p>地球環境の変化</p> <p>地球温暖化などにより、生きものは、それまでのようなくらしかできなくなった</p>
--------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------

生物多様性をまもろう！

これらをおともだちやかぞくにもつたえよう！

- くろめ、ふくおかけん、じもと 久留米や福岡県などなるべく地元でとれたものをしんせん、なうちへ食べよう！
- しぜん、ばしょ 自然のある場所へおでかけして、自然や生きものにふれた、かんさつしたりしよう！
- しぜん、い 自然や生きもののかんさつ会、生きもの保護活動やイベントなどにさんかしよう！